

關流八傳免許狀

印可免許

別傳免許

免得伏三懸免許

關流正統八傳相續之告文

不肖朝野出門に生きた文學の力無し、私學の時期を昂ち、嘉永安政の間、外國使節の渡來に際し、武術修行為の爲め、寸暇を得ず、夜間僅かの睡眠時を得て、數學を研究す事むい、良所に就き、研究すを得たり、關流正統六傳御弔安本先生より、見隱二題の免許を得、御弔安先生没後、内田五觀先生に從學し、終に關流正統の傳を継ぐに至り、然る不世を王政維新より、文學勃起の時、要り、數學の有用を普通學科として、各學校を通じて、普及行はせんと共に、本朝數學の珠算の用法を止め、のこり、更不不肖等の研究は水泡に帰せんと、
天明治十五年三月二十七日、内田先生世を辭す一日前、不肖を病室に招き、印可を授けらるゝに際し、耐忍能く傳統を繼ぐの士を吾を可くと、遺言せらるゝ、不肖淺學、遂に洋法を主とする、時に對し、爲りて、能く新し、本朝數學研究者を

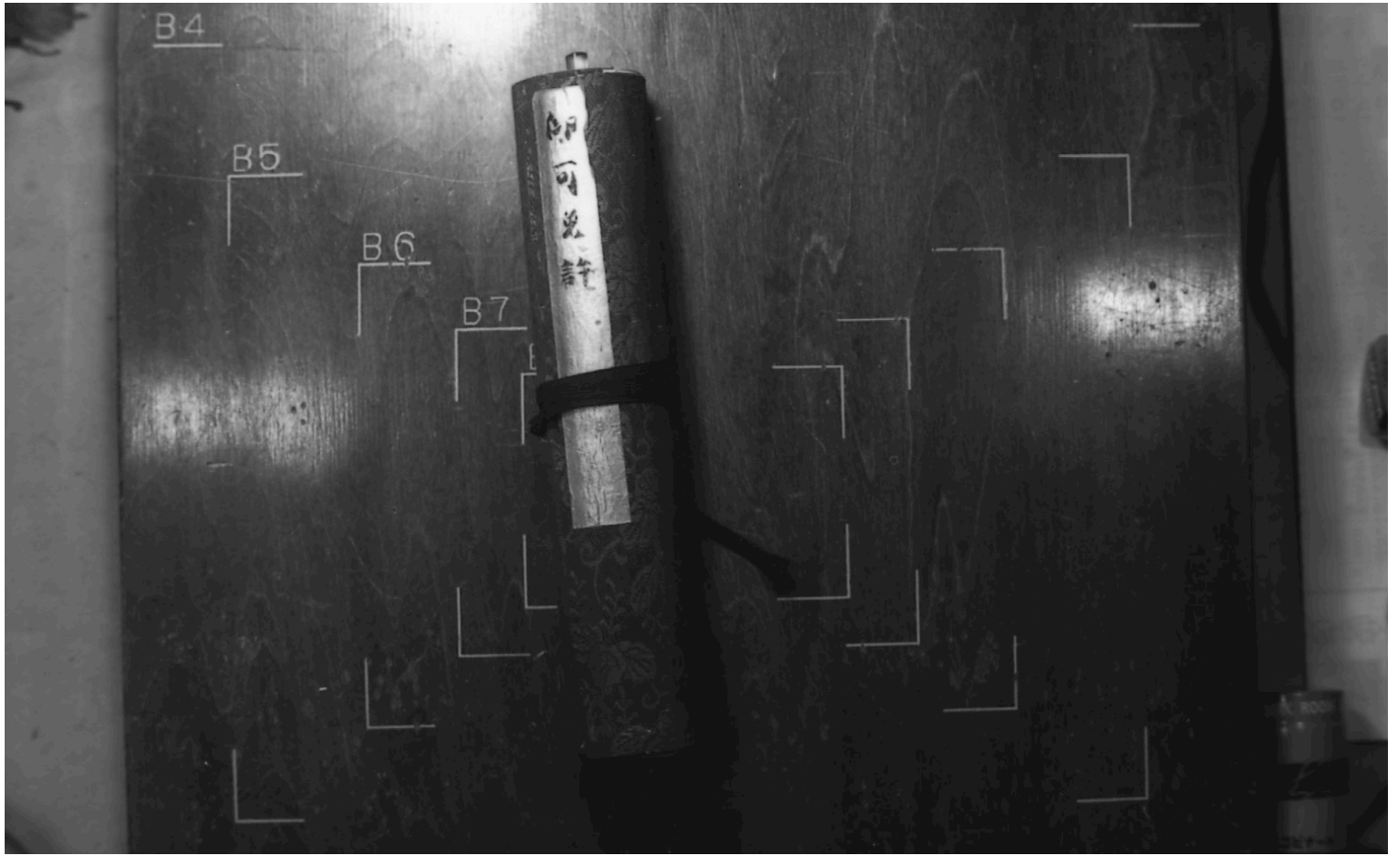
玉ひし、君の如き有力なる博士を以て既
 ハ傳の正統を相續する事を得たるに不肖
 か幸ひ之より專ら一きを徳に謹て茲小印可
 復許を呈し後朱倍々本朝教養を以て
 世界に顕まん事を尽力せられん事希望あり
 皇小候 敬具

大正五年六月十五日 喜の辰辰小尚て

川北朝鄰



醫學博士 林 鶴一 君





加勢ふる物事後根源

久々此天ハ一重一川

阿ノ不祿乃後知世居テ

千早振る神代と云々

一重一川ハ一重一川

加勢ふに越事後根源

久ふ此天小一重一川を

何ふ不祿乃後教其旨事

千早振る神代と里知る

二聖多程以元四於何甚

通る何層之末此教り老雲

浅き巨蘇片禮は遠山小

乃修候一高言祀を知

海潮りしすく深ま我

求光巖此のまきを別う末

果一此を石不道とをき出

孤天

方疎

算脫輪算法

病類明教

開方術變

頭術辨議

秘測變形單

求積

大陽率

緣爾來教術琢磨之精益欲

極吾道闢奧之旨不誤後世

法錄識之技而致一之純

大陽率

緣爾來敦術琢磨之精益求精

極吾道幽奧之旨不混流他

流殊派之技而致純一之純

素之石的之秘冊奧帳盡以

附授之學爾後如有懇款之

借當據盟約傳與之且彌欲

盡金聲玉振之情務致吾門

徒輩之望張依印可知石件

安島萬藏藤原直國

山路彌左衛門平主住

松永安右衛門源良阿

淡平之里頭信如石伴

川北朝郎

内田五觀海

日下貞八郎平 誠

安島萬藏孫原直國

林
鶴
一
殿

大正五年歲次丙辰夏六月吉辰藤原朝齋
物



川
北
朝
齋

内
山
五
雲
齋